

令和7年度 上田市立清明小学校 自己評価シート

学校教育目標			めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価																																																							
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの育成」 ・心も体もたくましい子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども			①自主:豊かな心かわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎながらめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		重点目標に係り、子どもたちを前に「材」と子どもたちとのあり様や子どもが他者にかかる心のあり様など意識した教育活動がなされてきている。また教師自身が「問い」持って教育活動に取り組んでいる。一方、子どもと「材」、子どもと『材』を通した友との関わりについては一層に深めることを考えたい。流れや展開にとらわれず、子どもが「材」や「友」との往還の中で湧き出てくる「子どもの問い」や焦点化された追究、それ故の振り返り、挨拶や返事、さらには靴そろえにも通ずる、「他を感じよう受け止めよう」とする心、それゆえ発しようとする自身の思い等々。「働きかけ、働きかけられる活動」、「働きかけ、働きかけられる喜び」を一層に育んでいきたい。																																																							
			今年度の重点目標		成果と課題																																																							
			1	○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。【学びを拓く】	各学年クラスで、外へ出たり、子どもたちの思いを大事に活動を展開したりする様子が見える。動き出してみたときに、子どもたちが何を感じ、どんな言葉を発するのか、その裏にある子どもの思いや願いを大事に見取り、集団の中に戻していきたい。もの、ひと、こととの出会いは大いに価値がある。																																																							
			2	○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。【他者意識の育成】	教師自身がどうあるかというのは、子どもたちにとって大きな影響がある。教師は発する言葉を意識してコントロールしたい。職員も児童も、互いに話ができる環境づくりに務め、互いを知るところを大事にしたい。相手を意識して伝える、受け止める環境づくりを意識した。発信の仕方も工夫した。																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>評価項目</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">重点目標</td> <td rowspan="3">自主</td> <td> 【学びを拓く】 ・問いを見だし、自らの考えを持つ ・進んで考えを繋ぎ、絡め合う ・見て、触れて、感じる体験 </td> <td>○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。</td> </tr> <tr> <td> 【学びの定着】 ・感動のある学び ・達成感を分かち合う学び ・自分を高める家庭学習や自主学習 </td> <td>○子どもたちが感動したり、達成感を分かち合える学びを仕組むことができたか。 ○子どもたちが自らを高める家庭学習や自主学習に向かえるよう取り組んだか。</td> </tr> <tr> <td> 【神樹の時間と学びの連携】 ・「ひと・もの・こと」とつながり、子どもたちの問いから始まる学び ・地域素材に目を向け地域と連携した探究的・協働的な学び ・他教科との連携 </td> <td>○子どもたちが地域や「ひと・もの・こと」とつながり、自ら問いを持って探究的・協働的な学びとなるよう授業を仕組むことができたか。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">豊かさ</td> <td> 【他者意識の育成】 ・気持ち伝わるあいさつ 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」 ・伝える力の向上 </td> <td>○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。</td> </tr> <tr> <td> 【特別活動の充実】 ～多様な他者と協力し、よりよく生きる力を育む～ ・互恵性のある交流活動 ・集団としての合意形成 ・子ども同士のつながりを強くする、子ども主体の活動 </td> <td>○学級の係、児童会、縦割り班やペア学級など、他者と関わり合う中で、互いを慮ったり、相手の意見を大事にしながら、自身の考えを伝えたりすることを通して、交流したり、合意形成したりし、子どもたちが主体となって創り出す場を大事にした活動を仕組むことができたか。</td> </tr> </tbody> </table>			対象	評価項目	評価の観点	重点目標	自主	【学びを拓く】 ・問いを見だし、自らの考えを持つ ・進んで考えを繋ぎ、絡め合う ・見て、触れて、感じる体験	○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。	【学びの定着】 ・感動のある学び ・達成感を分かち合う学び ・自分を高める家庭学習や自主学習	○子どもたちが感動したり、達成感を分かち合える学びを仕組むことができたか。 ○子どもたちが自らを高める家庭学習や自主学習に向かえるよう取り組んだか。	【神樹の時間と学びの連携】 ・「ひと・もの・こと」とつながり、子どもたちの問いから始まる学び ・地域素材に目を向け地域と連携した探究的・協働的な学び ・他教科との連携	○子どもたちが地域や「ひと・もの・こと」とつながり、自ら問いを持って探究的・協働的な学びとなるよう授業を仕組むことができたか。	豊かさ	【他者意識の育成】 ・気持ち伝わるあいさつ 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」 ・伝える力の向上	○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。	【特別活動の充実】 ～多様な他者と協力し、よりよく生きる力を育む～ ・互恵性のある交流活動 ・集団としての合意形成 ・子ども同士のつながりを強くする、子ども主体の活動	○学級の係、児童会、縦割り班やペア学級など、他者と関わり合う中で、互いを慮ったり、相手の意見を大事にしながら、自身の考えを伝えたりすることを通して、交流したり、合意形成したりし、子どもたちが主体となって創り出す場を大事にした活動を仕組むことができたか。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果と課題</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上記「今年度の重点」1にて評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>上記「今年度の重点」1にて評価</td> </tr> <tr> <td>子どもたちが、気づきや思いを共有できる時間を設定することで、発見したこと、「もっと○○したい」といった前のめりな姿がみえてきた。具体物や体験を通した学習場面を通して、心が動き、ハツとする学びの場を考えたい。家庭学習もメニューを提示した上で、こそまたちが選択し、主体的に取り組む学びにしたい。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>子どもたちの中に疑問や追究の意欲が生まれる授業の導入を大事にしたい。目の前の子どもたちをベースにした教材研究を進めていく。 主体的に取り組んでいる自主学習の様子などを全体で共有しながら、家庭学習のあり方も考えていく。子どもたちが自ら考えて取り組めるように改善したい。</td> </tr> <tr> <td>教師主導ではなく、子どもたちのこれまでの経験や思いから学習が展開できるように、単元の構成を考えていくことの大切さ実感した。活動がスタートしたあとの、子どもたちの思いや願いを捉えて、子どもたちから始まる活動にしてくことの難しさもある。活動や実態に応じ、小さなステップに分けていくことも考えたい。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>子どもが動き出し、協働できるような場を仕組んでいきたい。子どもたちが感じたこと、気づいたことをもとにして、「もの、ひと、こと」のつながりを作っていききたい。子どもたちの関心はもちろんだが、私たち教師自身が、周りへの関心を高め、広がりを求めていく姿勢を大事にしたい。</td> </tr> <tr> <td>上記「今年度の重点」2にて評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>上記「今年度の重点」2にて評価</td> </tr> <tr> <td>縦割り班の活動など、特に高学年がペアの学年の児童を気遣い行動する姿や思いや声を聞こうとする姿が見られ、同学年の集団の中では得られないものを獲得している様子がある。また、学年に応じて、互いの思いを共有し、合意形成をしていく経験は大事にし、機を捉えて意図的に仕組んでいきたい。教師も集団の一員として考えを伝え、共に考えよう。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>学級、学年、縦割りなど、子どもたち同士が関わっていく活動の場を引き続き設定していく。意図的に話し合う場を設け、関わりを支えながら、自分たちの力で新たなものを生み出していく喜びや達成感を感じられようような場を仕組んでいきたい。</td> </tr> </tbody> </table>						成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	上記「今年度の重点」1にて評価					上記「今年度の重点」1にて評価	子どもたちが、気づきや思いを共有できる時間を設定することで、発見したこと、「もっと○○したい」といった前のめりな姿がみえてきた。具体物や体験を通した学習場面を通して、心が動き、ハツとする学びの場を考えたい。家庭学習もメニューを提示した上で、こそまたちが選択し、主体的に取り組む学びにしたい。			○		子どもたちの中に疑問や追究の意欲が生まれる授業の導入を大事にしたい。目の前の子どもたちをベースにした教材研究を進めていく。 主体的に取り組んでいる自主学習の様子などを全体で共有しながら、家庭学習のあり方も考えていく。子どもたちが自ら考えて取り組めるように改善したい。	教師主導ではなく、子どもたちのこれまでの経験や思いから学習が展開できるように、単元の構成を考えていくことの大切さ実感した。活動がスタートしたあとの、子どもたちの思いや願いを捉えて、子どもたちから始まる活動にしてくことの難しさもある。活動や実態に応じ、小さなステップに分けていくことも考えたい。		○			子どもが動き出し、協働できるような場を仕組んでいきたい。子どもたちが感じたこと、気づいたことをもとにして、「もの、ひと、こと」のつながりを作っていききたい。子どもたちの関心はもちろんだが、私たち教師自身が、周りへの関心を高め、広がりを求めていく姿勢を大事にしたい。	上記「今年度の重点」2にて評価					上記「今年度の重点」2にて評価	縦割り班の活動など、特に高学年がペアの学年の児童を気遣い行動する姿や思いや声を聞こうとする姿が見られ、同学年の集団の中では得られないものを獲得している様子がある。また、学年に応じて、互いの思いを共有し、合意形成をしていく経験は大事にし、機を捉えて意図的に仕組んでいきたい。教師も集団の一員として考えを伝え、共に考えよう。		○			学級、学年、縦割りなど、子どもたち同士が関わっていく活動の場を引き続き設定していく。意図的に話し合う場を設け、関わりを支えながら、自分たちの力で新たなものを生み出していく喜びや達成感を感じられようような場を仕組んでいきたい。
対象	評価項目	評価の観点																																																										
重点目標	自主	【学びを拓く】 ・問いを見だし、自らの考えを持つ ・進んで考えを繋ぎ、絡め合う ・見て、触れて、感じる体験	○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。																																																									
		【学びの定着】 ・感動のある学び ・達成感を分かち合う学び ・自分を高める家庭学習や自主学習	○子どもたちが感動したり、達成感を分かち合える学びを仕組むことができたか。 ○子どもたちが自らを高める家庭学習や自主学習に向かえるよう取り組んだか。																																																									
		【神樹の時間と学びの連携】 ・「ひと・もの・こと」とつながり、子どもたちの問いから始まる学び ・地域素材に目を向け地域と連携した探究的・協働的な学び ・他教科との連携	○子どもたちが地域や「ひと・もの・こと」とつながり、自ら問いを持って探究的・協働的な学びとなるよう授業を仕組むことができたか。																																																									
	豊かさ	【他者意識の育成】 ・気持ち伝わるあいさつ 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」 ・伝える力の向上	○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。																																																									
		【特別活動の充実】 ～多様な他者と協力し、よりよく生きる力を育む～ ・互恵性のある交流活動 ・集団としての合意形成 ・子ども同士のつながりを強くする、子ども主体の活動	○学級の係、児童会、縦割り班やペア学級など、他者と関わり合う中で、互いを慮ったり、相手の意見を大事にしながら、自身の考えを伝えたりすることを通して、交流したり、合意形成したりし、子どもたちが主体となって創り出す場を大事にした活動を仕組むことができたか。																																																									
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策																																																							
上記「今年度の重点」1にて評価					上記「今年度の重点」1にて評価																																																							
子どもたちが、気づきや思いを共有できる時間を設定することで、発見したこと、「もっと○○したい」といった前のめりな姿がみえてきた。具体物や体験を通した学習場面を通して、心が動き、ハツとする学びの場を考えたい。家庭学習もメニューを提示した上で、こそまたちが選択し、主体的に取り組む学びにしたい。			○		子どもたちの中に疑問や追究の意欲が生まれる授業の導入を大事にしたい。目の前の子どもたちをベースにした教材研究を進めていく。 主体的に取り組んでいる自主学習の様子などを全体で共有しながら、家庭学習のあり方も考えていく。子どもたちが自ら考えて取り組めるように改善したい。																																																							
教師主導ではなく、子どもたちのこれまでの経験や思いから学習が展開できるように、単元の構成を考えていくことの大切さ実感した。活動がスタートしたあとの、子どもたちの思いや願いを捉えて、子どもたちから始まる活動にしてくことの難しさもある。活動や実態に応じ、小さなステップに分けていくことも考えたい。		○			子どもが動き出し、協働できるような場を仕組んでいきたい。子どもたちが感じたこと、気づいたことをもとにして、「もの、ひと、こと」のつながりを作っていききたい。子どもたちの関心はもちろんだが、私たち教師自身が、周りへの関心を高め、広がりを求めていく姿勢を大事にしたい。																																																							
上記「今年度の重点」2にて評価					上記「今年度の重点」2にて評価																																																							
縦割り班の活動など、特に高学年がペアの学年の児童を気遣い行動する姿や思いや声を聞こうとする姿が見られ、同学年の集団の中では得られないものを獲得している様子がある。また、学年に応じて、互いの思いを共有し、合意形成をしていく経験は大事にし、機を捉えて意図的に仕組んでいきたい。教師も集団の一員として考えを伝え、共に考えよう。		○			学級、学年、縦割りなど、子どもたち同士が関わっていく活動の場を引き続き設定していく。意図的に話し合う場を設け、関わりを支えながら、自分たちの力で新たなものを生み出していく喜びや達成感を感じられようような場を仕組んでいきたい。																																																							

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった